

梅雨の合間にさわやかに晴れ渡った今日の日、この茨木西高校に280名の新入生を迎えることができました。

本日、ご来賓ならびに保護者のみなさまにはご臨席をご遠慮いただきましたが、「新型コロナウイルス」による「新型肺炎」の感染拡大の中、例年とは異なる形での選抜試験、合格発表、合格者招集、登校日等を経て、第45回入学式を挙行できますことを心より感謝申し上げます。

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。

多くの高校の中から茨木西高校を自ら選んで入学されることを、在校生ならびに教職員一同、心より歓迎します。

本校の校訓は、「和」です。今日から学校生活を共にする同級生、先輩や来年度以降入学してくる後輩、本校の教職員はじめとする多くの人々との「絆」を大切に、3年間の学びの中で「和」の意味を考えてみてください。

さて、冒頭に述べた「新型肺炎」ですが、みなさんは「Dr. Stone」という漫画を読んだことがありますか。昨年度、アニメ化もされていますので知っている人も多いと思います。ある事件がきっかけで休眠状態となった高校1年生の主人公が、3,700年後の文明や科学技術が滅んだ未来に息を吹き返し、自分の持つ「科学の知識」を武器に様々な難局を切り開いていくというお話です。その中のエピソードの1つに「肺炎」が登場します。

原始の村の巫女は、不治の病に冒されており、余命幾ばくもない状況でした。主人公の少年は自らの知識から、巫女の病が「肺炎」であることを見抜き、半年間の試行錯誤の末に、特効薬「サルファ剤」を化学合成し、村の巫女を救います。作品に触れる中で、「現代の暮らしがいかに便利で恵まれているのか」、「文明や科学技術をはぎ取られた人類が、いかに脆弱な存在であるか」に気づかされます。

特効薬「サルファ剤」がなければ、普通の「肺炎」でも村の巫女は命を落としていたでしょう。何度も何度も実験と挫折を繰り返す中、決してあきらめない主人公の少年が口にした「科学は地道な探求」という言葉が、私の心に刺さりました。

今、全世界の科学者たちが、必死に「新型肺炎」の特効薬を探しています。

「地道な探求」の結果が得られるには、長い時間が必要です。私たちに求められているのは、「感染爆発を防ぐための意識を持ちつつ日常生活を取り戻すこと」、「医療に従事される方をはじめ様々な職業や役割で社会を支えている人々に敬意を持つこと」「不確実な情報やデマに惑わされない情報リテラシーを身につけること」です。

君たちが、本校の3年間の学びを通じて、文明や科学技術を未来につなぐ大切な存在に育ってくれることを期待しています。

「Dr. Stone」の作品の中で、全人類が絶滅する中、偶然生き残った主人公の父親は3,700年後に目を覚ます息子を信じて呟きます「つなぐんだよ、バトンを。幾千年の未来に」と。

ご挨拶が遅くなりましたが、保護者の皆様お子様のご入学おめでとうございます。

本日は参加をご遠慮いただき、本当に申し訳ございませんでした。本校で大切なお子様を3年間お預かりさせていただき、教職員一同、責任を持って日々の教育活動に勤めてまいります。ご家庭におきましても、お子様の日々の変化に気をかけていただき、何かありましたらお気軽に学校までご連絡ください。

結びに、茨木西高校45期生280名の健やかな成長を記念して、私からの式辞とさせていただきます。

令和2年6月15日
大阪府立茨木西高等学校
校長 覚前 潔